2017 年度　研究所事業報告書

研究所名	国際言語文化研究所
研究所長名	高橋　秀寿

Ⅰ．研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2017 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

国際言語文化研究所では 2017 年度も紀要『立命館国際言語文化研究』を 4 号刊行しており、特集と個別論文が多数掲載され、充実した内容となった。

恒例となっている秋の「連続講座」では「越境する民――接触／排除」を全体テーマとして、5 回にわたって「パイレーツ・モダニティ――海賊、奴隷、資本主義」、「アメリカ合衆国の国境の現在――難民、強制送還、移民制度と「排除」メカニズム」、「コンタクトゾーンとしての上海：文学・メディアから浮かび上がる対立の諸相」、「チャイニーズ・ドリームの光と影――中国におけるアフリカ系コミュニティの形成と交易」をそれぞれサブテーマとして登壇者とフロアーの間で活発な議論が交わされた。

重点プログラムでは、一昨年度から四つのプログラムが統合して「文化の移動と紛争的インターフェース」が立ち上げられ、今年度は昨年度に掲げられた目標、すなわち各グループにおける研究活動の蓄積を大切な資産として継承、発展させつつ、相互交流による新たな研究課題の発掘、研究者の相互乗り入れなどの実体化を目指すことの達成に向けて連続講座で緊密な協力関係を結んで、この講座を成功させた。個別のグループも伊格言氏の講演会など、活発に研究活動が展開された。

「バイリンガル fNIRS 言語脳科学プロジェクト」ではデータの収集がさらに進み、その研究成果はアイルランド、フランス、イギリス、イタリア、オーストラリアなどで報告が行われることで国際的に発信されている。

「ヴァナキュラー文化の多面的研究」では「文化の拡散と発展」をテーマとして掲げ、公開企画「アメリカの医療現場でのユーモア―医者が笑いを誘うとき」や公開シンポジウム「西洋の伝統に対するアフリカン・ディアスポラ文学の交渉と実践――アメリカ、キューバ、ブラジルを例に――」などが開催され、それまで蓄積された研究成果は今年度に論文集『ヴァナキュラー文化と現代社会』(思文閣出版、2018 年 3 月)が出版されることによって公表された。

「ジェンダー研究会」は昨年に引き続きクィア理論、性暴力、複合差別とアイデンティティの三つの課題を設定し、ドイツの歴史学者レギーナ・ミュールホイザー氏を招いて特別研究会「戦時の性暴力と性的搾取 ――第二次世界大戦下のドイツ軍の場合」や「フェミニズム×現象学――フェミニスト現象学と「個人的な経験」をめぐって」をテーマとする研究会活動を行ってきた。また監督を招いて映画『ミス・プレジデント』の上映会と講演会、さらに韓国の従軍慰安婦を取り上げた映画「鬼郷」(クィヒャン)上映会も開催した。

「風景・空間の表象、記憶、歴史」ではエジンバラ大学教授を招いた国際ワークショップ「ベルリンのモダニズム―20 世紀前半のメトロポリスの表象―」、イエナ大学教授、ドレスデン工科大学講師による講演会「都市と文化―ヴァイマル、ドレスデンの伝統」、アル・サバーハ・コレクション客員研究員と独立行政法人台南市美術館館長を招いた民族藝術会特別講演会を開催した。

研究所の企画としては 3 月に野球史研究家のビル・ステイプルズ・ジュニア氏を招いて「日系ベースボールのパイオニア銭村健一郎」に関するパネルディスカッションを開催した。

以上のように今年度も国際言語文化研究所は盛んに研究会活動を行ったが、すべての重点プログラムにおいて若手研究者に研究成果の公表の機会を与え、研究交流を促す機会を設けてきた。その意味で若手研究者の育成にも尽力してきた。

Ⅱ． 拠点構成員の一覧

本欄には、2018 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員（PD・RPD）、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	高橋　秀寿	文学部	教授
運営委員	有田　節子	言語教育情報研究科	教授
	ウェルズ　恵子	文学部	教授
	小川　さやか	先端総合学術研究科	准教授
	小川　真和子	文学部	教授
	河原　典史	文学部	教授
	金　友子	国際関係学部	准教授
	坂下　史子	文学部	准教授
	佐藤　渉	法学部教授	教授
	田浦　秀幸	言語教育情報研究科	教授
	滝沢　直宏	言語教育情報研究科	教授
	土肥　秀行	文学部	准教授
	内藤　由直	文学部	准教授
	中川　成美	文学部	特任教授
	仲間　裕子	産業社会学部	教授
	西林　孝浩	文学部	教授
	西　成彦	先端総合学術研究科	教授
	南川　文里	国際関係学部	教授
	吉田　恭子	文学部	教授
	米山　裕	文学部	教授
学内教員 （専任教員、研究系教員等）	千川　哲生	文学部	准教授
	Lachlan JACKSON	法学部	准教授
	崎山　政毅	文学部	教授
	ポール・デュムシェル	先端総合学術研究科	教授
	細谷　亨	経済学部	准教授
	ドュニ・タヤンディエー	国際関係学部	准教授
	鳥木　圭太	文学部	助教
	平田 裕	言語教育情報研究科	教授
	安保　寛尚	法学部	准教授
	岡本　広毅	文学部	准教授
	海寶　康臣	言語教育センター	外国語嘱託講師
	松本　克美	法務研究科	教授
	二宮　周平	法学部	特任教授
	坂本　利子	産業社会学部	特任教授
	丸山　里美	産業社会学部	准教授
	飯田　未來	政策科学部	准教授

		竹中　悠美	先端総合学術研究科	教授
		加藤　政洋	文学部	教授
		中本　真生子	国際関係学部	准教授
学内の若手研究者	①　専門研究員･研究員	櫻井　悟史	衣笠総合研究機構	専門研究員
		孫　美幸	衣笠総合研究機構	専門研究員
		佐久間　香子	衣笠総合研究機構	専門研究員
		金　成恩	立命館グローバル･イノベーション研究機構	専門研究員
	②　リサーチアシスタント			
	③　大学院生	大野　藍梨	先端総合学術研究科	一貫制８回生
		柏尾　有祐	先端総合学術研究科	一貫制５回生
		佐々木　亮	先端総合学術研究科	一貫制４回生
		秋吉　大輔	文学研究科	後期課程６回生
		武田　悠希	文学研究科	後期課程６回生
		鄧　麗霞	文学研究科	後期課程５回生
		栗山　雄佑	文学研究科	後期課程２回生
		中井　祐希	文学研究科	後期課程１回生
		安藤　陽平	文学研究科	後期課程１回生
		宮田　絵里	文学研究科	後期課程２回生
		岩本　知恵	文学研究科	後期課程２回生
		山口　真紀	先端総合学術研究科	一貫制８回生
		安　孝淑	先端総合学術研究科	一貫制７回生
		安田　智博	先端総合学術研究科	一貫制７回生
		越智　朝芳	先端総合学術研究科	一貫制６回生
		梁　説(ヤン･ソル)	先端総合学術研究科	一貫制６回生
		桐原　尚之	先端総合学術研究科	一貫制５回生
		荒木　健哉	先端総合学術研究科	一貫制５回生
		八木　達祐	先端総合学術研究科	一貫制４回生
		今里　基	先端総合学術研究科	一貫制４回生
		小田　英里	先端総合学術研究科	一貫制３回生
		中村　夏子	言語教育情報研究科	一貫制１回生
		スウ･ユウキ	言語教育情報研究科	一貫制１回生
		猪飼　悠記	言語教育情報研究科	一貫制２回生
		ユ･セン	言語教育情報研究科	一貫制１回生
		古谷　やす子	文学研究科	後期課程４回生
		川内　有子	文学研究科	後期課程４回生
		山﨑　遼	文学研究科	後期課程２回生
		猪熊　慶祐	文学研究科	後期課程１回生
		髙見澤　なごみ	先端総合学術研究科	一貫制３回生
		橋本　真佐子	先端総合学術研究科	一貫性４回生
	④　日本学術振興会特別			

研究員（PD・RPD）			
その他の学内者 （補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等）	木下　昭	文学部	非常勤講師
	佐藤　量	文学部	非常勤講師
	池田　啓悟	文学部	非常勤講師
	禧美　智章	文学部	非常勤講師
	竹村　理世	言語教育センター	非常勤講師
	早川　明郎	文学研究科	前期課程２回生
	中谷　可惟	文学研究科	前期課程１回生
	姫岡　とし子	文学部	授業担当講師
	山本 真紗子	先端総合学術研究科 文学部	研究指導助手 授業担当講師
	住田　翔子	産業社会学部 国際言語文化研究所	非常勤講師 客員協力研究員
客員協力研究員	井上　彰	東京大学	准教授
	宮下 和子	鹿屋体育大学 放送大学	名誉教授 非常勤講師
	西山 淳子	和歌山大学	准教授
	加藤 昌弘	名城大学	助教
	フェデリコ・ファルネ	ボローニャ大学	非常勤講師
	桜澤　誠	大阪教育大学教育学部	准教授
	大村　和正	産業社会学部	非常勤講師
その他の学外者	久野　量一	東京外国語大学	教授
	大辻　都	京都造形芸術大学	教授
	中村　隆之	大東文化大学	専任講師
	杉浦　清文	中京大学	専任講師
	佐久間　寛	東京外国語大学 AA 研	特任研究員
	寺尾　智史	宮崎大学	准教授
	大澤　真幸	麗澤大学	客員教授
	後藤　玲子	一橋大学	教授
	長谷川　唯	日本学術振興会	特別研究員（PD）
	村田　裕和	北海道教育大学旭川校	准教授
	泉谷　瞬	大谷大学	講師
	友田　義行	信州大学	准教授
	飯塚　隆藤	愛知大学	准教授
	石田　智恵	早稲田大学	常勤講師
	田中 寛	大東文化大学	教授
	湊 圭史	同志社女子大学	准教授
	福島 祥一郎	東京電機大学	助教

	関口 英理	同志社女子大学	准教授
	荒木 孝子	奈良大学	元非常勤講師
	池内 靖子	立命館大学	名誉教授
	梁 仁實	岩手大学	准教授
	木村 朗子	津田塾大学国際関係学部	教授
	岡野 八代	同志社大学グローバル・スタディーズ研	教授
	秋林 こずえ	同志社大学・グローバル・スタディーズ研	教授
	上野 千鶴子	東京大学 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）	名誉教授 理事長
	堀江 有里	法政大学大原社会問題研究所 立命館大学生存学研究センター	客員研究員
	岩川 ありさ	立教大学	非常勤講師
	黒岩 裕市	フェリス女学院大学	非常勤講師
	泉谷 瞬	大谷大学	任期制講師
	三木 順子	京都工芸繊維大学	准教授
	平田 剛士	京都国立近代美術館	客員研究員
	仲間 絢	京都大学大学院	博士後期課程
研究所・センター構成員　　計　123 名　（うち学内の若手研究者　計 35 名）			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。（2018 年 3 月 31 日時点）

1．著書

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	飯塚隆藤	道と越境の歴史文化：三遠南信クロスボーダーと東西文化	共著	2017 年	青簡舎	和田明美・戸田敏行・犬飼隆・北川和秀・竹尾利夫・近藤泰弘・山田邦明・渡辺和敏・藤田佳久・岩崎正弥	
2	石田智恵	異貌の同時代：人類・学・の外へ	共編	2017 年	以文社	渡辺公三・冨田敬大編	
3	河原典史	移民が紡ぐ日本：交錯する文化のはざまで	共著	2018 年	文理閣	木下昭・水野真理子・デイ多佳子・半澤典子・志賀恭子・和泉真澄・高橋侑里・小林善帆・李 裕淑・佐藤量	
4	佐藤量	写真記録「満洲」生活の記憶別冊	共著	2018 年	近現代資料刊行会	沈潔・趙軍・佐藤 仁史（監修・解説）佐藤量・菅野智博（解説）	

5	西成彦	外地巡礼	単著	2018 年 1 月	みすず書房		pp. 1-303
6	久野量一 寺尾智史 中村隆之 西成彦	カリブ海世界を知るための 70 章	共著	2017 年 6 月	明石書店	国本伊代(編)	pp. 1-346
7	Sakuma, Yutaka et al.	Rapport: ymposium international: Art et affect en Afrique	共著	2018 年 3 月	Tokyo University of Foreign Studies	Sakuma, Yutaka (éd.)	pp. 1-71
8	中川成美	『戦争を読む』	単著	2017 年	岩波書店		
9	Paul Dumoucel	Living with Robots	共著	2017 年 11 月	Harvard University Press	Luisa Damiano、Malcolm DeBevoise	p.280
10	ウェルズ恵子	多文化理解のためのアメリカ文化入門	共著	2017 年 4 月	丸善出版	リサ・ギャバート	
11	ウェルズ恵子	亀井俊介オーラル・ヒストリー—戦後日本における一文学研究者の軌跡	分担執筆	2017 年 4 月	研究社	亀井俊介	第 7 章・第 8 章
12	ウェルズ恵子	ヴァナキュラー文化と現代社会	編著	2018 年 3 月	思文閣出版	サイモン・ブロナー、ジャック・サンティーノ、荒このみ 他	
13	安保寛尚	ミノリスタとアフロキューバ主義	分担執筆	2018 年 3 月	中央大学出版部、『モダニズムを俯瞰する』	中央大学人文科学研究所編	pp.129-174
14	岡本広毅	ケルト文化事典	分担執筆	2017 年 5 月	東京堂出版	木村正俊、松村賢一共編	pp.290-91
15	加藤昌弘	ケルト文化事典	分担執筆	2017 年 5 月	東京堂出版	木村正俊、松村賢一共編	pp.12-13 pp.383-387
16	加藤昌弘	ケルトを知るための 65 章	分担執筆	2018 年 2 月	明石書店	木村正俊編	pp.37-41 pp.331-339 pp.349-353
17	田中寛	日タイ対照研究の諸問題構文と意味の構造	単著	2018 年 3 月	大東文化大学語学教育研究所、『語学教育フォーラム』33 号		全ページ
18	西成彦	『対話のために／「帝国の慰安婦」という問いをひらく』	共編	2017 年 5 月	図書出版クレイン	浅野豊美・小倉紀蔵と共編	
19	松本克美	『現代日本の法過程〔宮澤節生先生古稀記念〕上巻』	共編	2017 年	信山社	上石圭一・大塚 浩・武蔵勝宏・平山真理と共編	pp.235-250
20	松本克美	『Before/After 民法改正』		2017 年	弘文堂	潮見佳男他編	pp.84-91
21	松本克美	『大改正時代の民法学』		2017 年	成文堂		pp.87-104
22	松本克美	『社会の変容と民法の課題(上)』		2018 年	成文堂		pp.425-440
23	丸山里美	『貧困問題の新地平ーーもやいの相談活動の軌跡』	編		旬報社		pp.3-7 pp.105-120 p.180

24	岩川ありさ	『文学研究から現代日本の批評を考える—批評・小説・ポップカルチャーをめぐって』	共著	2017 年 4 月	ひつじ書房		
25	上野千鶴子	『戦争と性暴力の比較史へ向けて』	共編	2018 年 3 月	岩波書店	蘭信三, 平井和子	
26	竹中悠美	カルチャーミックスII	共著	2018 年 3 月	晃洋書房	岡林洋・清瀬みさを編著	pp.243 - 259
27	竹中悠美	美術教育ハンドブック	共著	2018 年 3 月	三元社	神林恒道・ふじえだみつる編著	pp.29 - 37
28	高橋秀寿	ホロコーストと戦後ドイツ——表象・市物語・主体	単著	2017 年 12 月	岩波書店		
29	三木順子	描かれた都市と建築	共著	2017 年 12 月	昭和堂	並木誠士(編)	pp.191 - 214

2．論文

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	飯塚隆藤	淀川流域における近代河川舟運の変化に関する検討:歴史 GIS データベースを用いて	単著	2017 年	名古屋地理、30 巻		pp.13-16	無
2	南川文里	戦後期における出入国管理体制の成立と「非移民国」日本	単著	2017 年	立命館言語文化研究、29 巻 1 号		pp.137-144	無
3	MINAMI KAWA, Fuminori	Refugees in Japanese America: Immigration, Gender, and Wartime Memories during the 1950s	単著	2017 年	立命館言語文化研究		pp.29-44	無
4	GAVIRATI, Pablo; ISHIDA, Chie	Interpelacion o autonomia: El caso de la identidad nikkei en la comunidad argentino-japonesa	共著	2017 年	Alteridades、27, 53		pp.59-71	無
5	石田智恵	可視性の転覆:アルゼンチンにおける出自と政治	単著	2017 年	立命館言語文化研究、29 巻 1 号		pp.43-57	無
6	石田智恵	やわらかな人種主義:アルゼンチンにおける「ハポネス」の経験から	単著	2017 年	文化人類学研究、18 巻		pp.87-111	有
7	佐藤量	はじめに ：「満洲の記憶」を問うということ	単著	2017 年	日本オーラル・ヒストリー研究、13 巻		pp.53-55	無
8	河原典史	カナダ日本人漁業史研究をめぐる展望と課題	単著	2018 年	立命館文学、656 巻		pp.121-135	無
9	大野藍梨	シモーヌ・シュヴァルツ＝バルト『奇跡のテリュメに雨と風』におけるシスターフッド	単著	2018 年 3 月	『立命館言語文化研究』29 巻 4 号		pp. 75-89	有
10	大辻都	夢としての民話——シモーヌ・シュヴァルツ＝バルト『ティ・ジャン・ロリゾン』	単著	2018 年 3 月	『立命館言語文化研究』29 巻 4 号		pp. 59-73	無

11	久野量一	キューバ作家の英語創作と翻訳	単著	2018 年 3 月	『立命館言語文化研究』29 巻 4 号		pp. 19-27	無
12	佐久間寛	自由と負債：カール・ポランニー2.0 の経済人類学	単著	2018 年 3 月	『哲学』（三田哲学会）140 巻		pp.113-145	有
13	中村隆之	エドゥアール・グリッサンと『アコマ』(2)	単著	2018 年 3 月	『立命館言語文化研究』29 巻 4 号		pp. 29-50	無
14	西成彦	アフター『ザ・テンペスト』――脱植民地化と自由	単著	2018 年 3 月	『立命館言語文化研究』29 巻 4 号		pp. 91-99	無
15	西成彦	もう一つの海洋文学	単著	2018 年 7 月	『植民地文化研究』第 16 号		pp.214-216	無
16	福島亮	ヴァン・ゴルとエメ・セゼール――1940 年代のニューヨークにおける戦時文学場とカリブ海――	単著	2018 年 3 月	『立命館言語文化研究』29 巻 4 号		pp. 3-18	無
17	Sakuma, Yutaka	"Surrogate of Fear: An Ethnographic Study of Hippopotamus Hunting in the River Niger"	単著	2017 年 4 月	Journal of African Studies, 91		pp. 17-28	有
18	中川成美	文学と情動― 発見としてのプロレタリア文学	単著	2017 年 8 月	『立命館文学』(652)		pp.1167-1177	無
19	村田裕和	闇の中の蒐集家― 江戸川乱歩テクストの〈触覚性〉について	単著	2017 年 8 月	『立命館文学』(652)		pp.1178-1189	無
20	鳥木圭太	同化と異化のはざまで― 佐多稲子「髪の歎き」における植民地的主体の形成について ―	単著	2017 年 8 月	『立命館文学』(652)		pp.1190-1203	無
21	池田啓悟	慈善と信念をめぐって― 宮本百合子「貧しき人々の群」論 ―	単著	2017 年 8 月	『立命館文学』(652)		pp.1204-1215	無
22	禧美智章	「空気系」と物語―『けいおん！』にみる成長の物語	単著	2017 年 8 月	『立命館文学』(652)		pp.1216-1227	無
23	泉谷瞬	自壊する帝国、世界にのさばる身体― 松浦理英子「肥満体恐怖症」論 ―	単著	2017 年 8 月	『立命館文学』(652)		pp.1242-1254	無
24	武田悠希	『立身膝栗毛』の構造― 小説表現としての「旅」と「恋愛」 ―	単著	2017 年 8 月	『立命館文学』(652)		pp.1255-1263	無
25	鄧麗霞	牛島春子の引揚げ文学	単著	2017 年 8 月	『立命館文学』(652)		pp.1274-1286	有
26	岩本知恵	自他境界は欲望する― 安部公房「飢えた皮膚」論 ―	単著	2017 年 8 月	『立命館文学』(652)		pp.1287-1298	有
27	栗山雄佑	目取真俊「希望」論― 動員される少女の犠牲について ―	単著	2017 年 8 月	『立命館文学』(652)		pp.1299-1309,	有
28	中川成美	トラベル・ライティングという機構―文学とツーリズム―	単著	2017 年 9 月	『昭和文学研究』(75)		pp.18-28	無
29	中井祐希	隆起する「欧州紀行」：横光利一のパリ体験	単著	2017 年 9 月	『昭和文学研究』(75)		pp.44-56	有
30	中井祐希	横光利一とベルリン・オリンピック	単著	2018 年 3 月	『横光利一研究』(16)		pp.109-124	有

31	小川さやか	タンザニアにおける路上商人の組合化とインフォーマル性の政治—抗争空間論再考（特集グローバリゼーションと公共空間の変容）	単著	2017 年 6 月	文化人類学, 82 巻 2 号		pp.182-201	有
32	小川さやか	オートエスノグラフィに溢れる根拠なき世界の可能性（特集エスノグラフィ：質的調査の現在）	単著	2017 年 10 月	現代思想, 45 号		pp.123-137	無
33	小川さやか	チョンキンマンションのボスは知っている 第 1 回ボスとの出会い	単著	2018 年 1 月	Web 春秋		オンライン	無
34	小川さやか	チョンキンマンションのボスは知っている 第 2 回香港のタンザニア人たち	単著	2018 年 2 月	Web 春秋		オンライン	無
35	小川さやか	チョンキンマンションのボスは知っている 第 3 回思慮ぶかき無関心	単著	2018 年 3 月	Web 春秋		オンライン	無
36	Paul Dumoucel	L'aide sociale punitive	単著	2017 年 10 月	Etudes 4242		pp.15-21	有
37	Paul Dumoucel	"Robots: Technical Individuals and Systems"	単著	2017 年 10 月	NatureCulture 4		pp.76-89	有
38	Paul Dumoucel	The Practices of Feeling with the World: Towards and Anthropology of Affect, Senses and Materiality – Introduction	共著	2017 年 11 月	Japanese Review of Cultural Anthropology 18	Andrea De Antoni	pp.91-98	有
39	Paul Dumoucel	Acting Together in Dis-Harmony. Cooperating to Conflict and Cooperation in Conflict	単著	2018 年 1 月	Studi di Sociologia 4		pp.303-318	有
40	佐久間香子	サラワク人類学の系譜と今日的課題	単著	2017 年 10 月	マレーシア研究：6		pp.21-42	有
41	今里基	非当事者として聞き取り調査をすること—ある日韓ダブルのアイデンティティの事例から—	単著	2018 年 3 月	立命館大学生存学研究：1		pp.53-61	無
42	田浦秀幸	Translanguaging: Language, Bilingualism and Education（書評）	単著	2017 年 10 月	「多言語多文化研究」 23/ 1,		pp. 55-56	有
43	Keiko WELLS	Variations and Interpretations of the Japanese Religious Folk Ballad, Sansho-Dayu, or "Princess Anju and Prince	単著	2017 年 10 月	Journal of Ethnography and Folklore, New Series（2017 巻 1-2 号）		pp.102-118	有

		Zushio" (2): The Theatrical Tradition in Ningyo-Joruri (Puppet Plays) and Kabuki (Classical Dance-and-Music-Drama)						
44	佐藤渉	"The Place was Speaking"—Kate Grenville, The Secret River における風景描写	単著	2018 年 3 月	立命館大学法学会、「立命館法学」別冊『ことばとそのひろがり(6)島津幸子教授追悼論集』		pp.265-280	無
45	佐藤渉	インタビュー「作家キム・スコットに聞く」	単著	2017 年 12 月	オーストラリア・ニュージーランド文学会、『南半球評論』33 号		pp.55-63	無
46	佐藤渉	(翻訳)ソンドラ・ウィーランド・ハウ著「明治期日本におけるアメリカ音楽の受容」	単独翻訳	2018 年 3 月	思文閣出版、『ヴァナキュラー文化と現代社会』	ウェルズ恵子ほか	pp.238-250	有
47	佐藤渉	(翻訳)ジャック・サンティーノ著「民衆による死の記念化」	単独翻訳	2018 年 3 月	思文閣出版、『ヴァナキュラー文化と現代社会』	ウェルズ恵子ほか	pp.32-46	有
48	坂下史子	人種暴力の記憶化と写真—「沈黙の行進」から「黒人の命も大切」運動へ	単著	2018 年 3 月	思文閣出版、『ヴァナキュラー文化と現代社会』	ウェルズ恵子ほか	pp.155-174	有
49	安保寛尚	キューバのヒップホップ運動とアフリカン・ディアスポラの伝統の実践—エルマーノス・デ・カウサのラップ"Tengo"の分析を中心に	単著	2018 年 3 月	立命館大学法学会、「立命館大学法学」別冊『ことばとそのひろがり(6)島津幸子教授追悼論集』		pp.1-30	無
50	岡本広毅	"dark phantoms in the wind"—J. R. R.トールキンの研究業績における＜フィロロジー＞と＜文学研究＞の諸相	単著	2018 年 3 月	立教大学英米文学専修紀要『英米文学』第 78 号		pp.79-101	有
51	岡本広毅	'Curious fact': Fading of Northernisms in The Reeve's Tale	単著	2017 年 10 月	『チョーサー研究会会報』第 5 号		pp.3-21	有
52	古谷やす子	『彼らの目は神を見ていた』—ジェイニーの成熟の三層	単著	2018 年 3 月	黒人研究学会、『黒人研究』87 号		pp.48-56	有
53	川内有子	ミットフォードの "The Forty-seven Ronins"の四十七士論としての新しさとイギリスにおける同時代的反響	単著	2017 年 7 月	日本比較文化学会,『比較文化研究』127 号		pp.13-21	有
54	川内有子	F. V. Dickins 訳『仮名手本忠臣蔵』の成立と 1880 年版の改訂—Japan Weekly Mail 誌上の論争を踏まえて	単著	2018 年 3 月	『アート・リサーチ』18 号		pp.15-24	有
55	山﨑遼	(翻訳)トーマス・マケイン著「アバディーンシャーの歌い手た	単独翻訳	2018 年 3 月	思文閣出版、『ヴァナキュラー文化と現代	ウェルズ恵子ほか	pp.178-199	有

		ち―スコティッシュ・バラッドの文脈、構造、意味」			社会』			
56	山﨑遼	（翻訳）マイケル・スプーナー他著、「歌と言葉を取り戻すとき」	単独翻訳	2018年3月	思文閣出版、『ヴァナキュラー文化と現代社会』	ウェルズ恵子ほか	pp.301-312	有
57	宮下和子	スティーブン・フォスターの生涯と日本への遺産	単著	2018年3月	思文閣出版、『ヴァナキュラー文化と現代社会』	ウェルズ恵子ほか	pp.274-292	有
58	西山淳子	英語発音の自然さとピッチ幅―日本の英語学習者と英語母語話者の認識的評価	共著	2018年3月	和歌山大学学芸学会『学芸』第64号	孫工季也、上野舞斗	pp.189-193	無
59	西山淳子	事件としての映画『アメリカの影』―アメリカ社会と映画史におけるその意義	共著	2018年3月	和歌山大学学芸学会『学芸』第64号	樋口明	pp.179-187	無
60	加藤昌弘	現代スコットランドにおけるディズニー映画の受容―映画『メリダとおそろしの森』（2012 年）にみる人種・民族のイメージと国民意識	単著	2018年1月	名城大学人間学部『人間学研究』15号		pp.1-14	有
61	田中寛	大東亜共栄圏下における異言語接触の一断面―“大東亜語学”と南方日本語普及工作の実態―	単著	2017年7月	大東文化大学東洋研究所『東洋研究』204号		pp.43-92	有
62	田中寛	「とあって」と「にあって」の意味と用法―「ある」の後置詞化と指示的特性	単著	2018年3月	大東文化大学語学教育研究所『語学教育研究論叢』35号		pp.1-24	有
63	田中寛	恣意的行為をあらわす副詞の用法―「むやみに」「やたらに」などを例に	単著	2018年3月	大東文化大学外国語学会『外国語学会誌』47号		pp.21-30	有
64	田中寛	タイ語の存在、所有、出現・発生文の意味構造―/pay/と/maa/の意味機能	単著	2018年3月	日タイ言語文化研究所『日タイ言語文化研究』第5号		pp.137-171	有
65	湊圭史	先住民捕鯨文学に読む文化の柔軟性―ホウガン『クジラの民』とスコット『ほら、死びとが、死びとが踊る』	単著	2017年12月	『南半球評論』33号、オーストラリア・ニュージーランド文学会		pp.31-43	有
66	Minato, Keiji	The Art of Being Uncomfortable: Reading Active Aesthetics: Contemporary Australian Poetry	単著	2018年3月	『オーストラリア研究』31号、オーストラリア学会		pp.101-109	無
67	湊圭史	（書評）キム・スコット著（下楠昌哉訳）『ほら、死びとが、死びとが踊る―ヌンガルの少年ボビーの物語（オーストラリア現代文学傑作選）』	単著	2018年3月	『オーストラリア研究』31号、オーストラリア学会		pp.124-127	無

68	西成彦	戦時性暴力とミソジニー――芥川龍之介『藪の中』を読む」	単著	2017 年 5 月	『対話のために／「帝国の慰安婦」という問いをひらく』図書出版クレイン			無
69	松本克美	「民事消滅時効への被害者学的アプローチ―児童期の性的虐待被害の回復を阻害しない時効論の構築のために」	単著	2017 年	被害者学研究,日本被害者学会, 27 号		pp.30-41	有
70	松本克美	「安保法制と損害論?ジェンダーの視点もふまえて」	単著	2017 年	ジェンダー法研究,信山社,4 号		pp.67-76	無
71	松本克美	「後遺症と時効」	単著		立命館法学,立命館法学会,373 号		pp.1048-1070	無
72	丸山里美	「貧困把握の単位としての世帯・個人とジェンダー」	単著	2017 年 10 月	『「子どもの貧困」を問いなおす――家族・ジェンダーの視点から』法律文化社	松本伊智朗編	pp.120-133	無
73	丸山里美	「見えない女性の貧困とその構造――ホームレス女性の調査から」	単著	2017 年	『住民と自治』8 月号		pp.10-13	無
74	丸山里美	「婦人保護施設「生野学園」の歩み	共著	2017 年	『思い、紡いでーーいくの学園 20 周年記念誌』	古久保さくら	pp.53-88	無
75	黒岩裕市	「同性愛者の隣人」との関係性――桐野夏生『天使に見捨てられた夜』	単著	2017 年 9 月	中央大学、『人文研紀要』、第 88 号		pp.1-27	
76	岩川ありさ	「変わり身せよ、無名のもの―多和田葉子『献灯使』論」	単著	2018 年 3 月	すばる 40(4)		pp.164-173	無
77	岩川ありさ	「二次元の死に責任を持つこと―『機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ』論」	単著	2018 年 2 月	ユリイカ 3 月臨時増刊号―特集・岡田麿里、50(3)		pp.236-245	無
78	岩川ありさ	「志村貴子における約束」	単著	2017 年 10 月	ユリイカ増刊号―特集・志村貴子		pp.160-169	無
79	岩川ありさ	クィアな自伝―映画「ムーンライト」と古谷田奈月「リリース」をつないで	単著	2017 年 9 月	『早稲田文学増刊女性号』川上未映子責任編集		pp.436-444	
80	岩川ありさ	コミュニカティブなクィア？―李琴峰「独舞」を手がかりにして	単著	2017 年 7 月	現代思想		pp.186-194	無
81	岩川ありさ	どこを見ても記憶がある―多和田葉子『百年の散歩』論	単著	2017 年 4 月	新潮 114(5)		pp.154-157	無
82	栗山雄佑	『平和通りと名付けられた街を歩いて』論――テロルの裏の沈黙について	単著	2017 年 12 月	越境広場 (4 号)		pp.66-73	無
83	姫岡とし子	「ナチ・ドイツの性暴力はいかに不可視化されたか――強制収容所内売春施設を中心として」	単著	2018 年 3 月	『戦争と暴力の比較史へ向けて』岩波書店		pp.227-254	無

84	マルコ・ボア（竹中悠美訳）	無人地帯 No Man's Zone	単著翻訳	2018年3月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』29巻4号		pp.145-154	無
85	山本真紗子	美学者中井宗太郎の渡欧体験（1922～23）－京都市立芸術大学芸術資料館所蔵中井宗太郎資料を中心に―	単著	2017年7月	京都大学人文科学研究所、『人文学報』110号		pp.71-92	有
86	高橋秀寿	ヒトラーが『最期の 12 日間』から『帰ってきた』わけ	単著	2018年3月	信山社、『ドイツ研究』52号		pp.42-57	有
87	高橋秀寿	ポピュラー・カルチャーにおける破局の風景――日独比較	単著	2018年3月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』29巻4号		pp.155-170	無
88	仲間絢	バンベルク大聖堂の《騎馬像》と《聖母像》―『雅歌』の伝統と聖堂彫刻のイメージ・プログラム―	単著	2018年3月	京都大学大学院人間・環境学研究科岡田温司研究室、『ディアファネース：芸術と思想：京都大学大学院人間・環境学研究科岡田温司研究室紀要』5号		pp.17-41	有
89	仲間絢	The Sculpture of the Fürstenportal of Bamberg Cathedral: The Eschatological Salvation of Brides in Mystical Marriage	単著	2018年2月	美学会、Aesthetics, no. 20		pp.126-137	有
90	三木順子	不可視の都市風景―現代都市と現代文学における「日常空間」	単著	2018年3月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』29巻4号		pp.88-99	無
91	三木順子	Dialectic between Tableau and Map: Updating the Phase of Space-gazing	単著	2017年7月	International Congress of Aesthetics, Aesthetics and Mass Culture: Proceedings of ICA 2016		pp.148-152	有
92	仲間裕子	C.D.フリードリヒのロマン主義的風景と文学	単著	2018年3月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』29巻4号		pp.171-183	有
93	Federico Farne'	Tokyo, The Versatile City	単著	2017年	RETRACING THE PAST Historical continuity in aesthetics from a		pp.234-244	有

					global perspective, International Association for Aesthetics			

３．研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	飯塚隆藤	三遠南信地域の歴史GISデータベース化	2018年	第5回越境地域政策研究フォーラム	
2	MINAMI AKWA, Fuminori	Comment to the Session "Voices of Dissent: Trans-Pacific and Hemispheric Approaches to Teaching Race, Violence, Histories, and Identities"	2017年	American Studies Association, 2017 Annual Meeting（国際学会）	
3	ISHIDA, Chie	El japones y el nikkei como categorias postcoloniales para resistir al racismo	2017年	Segundo Encuentro de Estudios Japoneses en Argentina 2017（招待講演）（国際学会）	
4	河原典史	研究成果を還元する：『東宮殿下御渡欧記念・邦人児童写真帖』の復刻から考える	2017年	京都民俗学会 第36回年次研究大会	
5	河原典史	バンクーバーにおける 日本人ガーディナーの歴史的展開	2017年	日本カナダ学会 第42回年次研究大会	
6	久野量一	文学におけるキューバ革命の有効性	2017年6月	日本ラテンアメリカ学会第38回定期大会、東京大学駒場キャンパス	
7	西成彦	仏領西インドから極東の日本列島へ	2018年3月	国際シンポジウム：世界文学から見たフランス語圏カリブ海、東京日仏会館	
8	中川成美	転向という心情的倫理	2017年7月1日	Tenko in Trans-War Japan: Culture, Politics, History 於・リーズ大学	
9	内藤由直	文学的〝真実〟の問題――中野重治と林房雄の転向	2017年7月1日	Tenko in Trans-War Japan: Culture, Politics, History 於・リーズ大学	
10	栗山雄佑	消えていく〈記憶〉に接触すること―目取真俊「群蝶の木」論	2017年10月15日	日本近代文学会秋季大会　於・愛知淑徳大学	
11	中井祐希	書き変わる〈日本〉と〈東欧〉――横光利一のブダペスト体験――	2017年6月11日	立命館大学日本文学会大会　於・立命館大学	
12	安藤陽平	安岡章太郎『海辺の光景』論――＜ケア＞の視点から――	2017年12月	昭和文学会・第61回研究集会　於：専修大学	
13	安藤陽平	安岡章太郎と「戦後」	2018年2月21日	2018 ソウル・京都・台北 東アジア次世代フォーラム 於:韓国 高麗大学校	
14	Sayaka Ogawa	The Logic of "Open Reciprocity" of the Tanzanian Union in Hong Kong and China.	2017 年5月	International Union of Anthropology and Ethnology 2017、Ottawa University, Canada	
15	小川さやか	ケータイは私のオフィス―香港・中国のタンザニア人たちのビジネスとコミュニティ	2017年5月	日本アフリカ学会第54回学術大会、信州大学、長野市	
16	Paul Dumouce	Vivre avec les robots	2017年6月	Les Rencontres philosophiques de Monaco	

	l				
17	Paul Dumouce l	Au-delà du sacrifice inutile : Réné Girard et Joseph Wresenski		Ce que la misère nous donne à penser, Centre Culturel International de Cerisy-la-salle、France.	
18	佐久間香子	森を出た「森」の資源	2017 年 10 月	立命館大学ライスボールセミナー、立命館大学、京都市	
19	今里基	ニューカマーに見る日本社会への同化と他者化に関する研究—韓国系ニューカマー1.5 世と 2 世の事例から	2017 年 11 月 5 日	日本社会学会第 90 回学術大会,東京大学	
20	TAURA, Hideyuki	'Language Attrition and Reactivation in Childhood: Two comparative case studies	2017 年 6 月	11th ISB (International Symposium of Bilingualism) at University of Limerick, Ireland	Cristina Maria Moreira Flore & Amanda Taura
21	TAURA, Hideyuki	Brain Activation, Connectivity and the L2 Onset Age Effect	2017 年 6 月	Bilingualism vs. Monolingualism: A new perspective to limitations on L2 acquisition. Toulouse, France	
22	TAURA, Hideyuki	Does interpreting between two linguistically distant languages induce brain restructuring? A longitudinal brain-imaging case study of a professional Japanese-English interpreter	2017 年 7 月	The 8th Asian Translation Traditions Conference at SOAS, London, UK	
23	TAURA, Hideyuki	'L2 Narrative development and brain connectivity	2017 年 8 月	EuroSLA27 (the 27th European Second Language Acquisition) at the University of Reading, UK	Amanda Taura
24	TAURA, Hideyuki	L2 onset effect on brain circuitry: An fNIRS study examining early Japanese-English bilinguals	2017 年 9 月	fNIRS UK 2017, at UCL/Birbeck, London, UK	Amanda Taura
25	TAURA, Hideyuki	An fNIRS study of a professional Japanese-English interpreter and how his L2 narrative style and brain activation was affected by his experience	2017 年 10 月	Framing Minds: English and Affective Neurosciences, at University of Naples, Italy	Amanda Taura
26	TAURA, Hideyuki	Ideal school settings for enhancing children's bilinguality – an insight from a Japanese case study	2017 年 12 月	Multilingualism as a Resource: Bringing Home Language to the Fore, at University of New South Wales, Sydney, Australia	Amanda Taura
27	Keiko WELLS	Variations and Interpretations of the Japanese Folk Religious Ballad, Sanshō-Dayu, or "Princess Anju and Prince Zushiō" (2): The Theatrical Tradition in Ningyō-jōruri (puppet plays) and Kabuki (classical dance-and-music- drama)	2017 年 5 月	International Ballad Conference (KfV), 48th Annual Meeting	
28	Keiko WELLS	Lullabies Created by Child Nursemaids in Japan: Lyrics that Express Observations and Emotions	2017 年 5 月	University of Ljubljana, Faculty of Arts, Depart meant of Asian and African Studies	

		of Peasant Children in Labor			
29	Keiko WELLS	Variations and Interpretations of Japanese Folk Religious Ballad, "Princess Anju and Prince Zushio": 800-year tradition	2017 年 5 月	Institute for Ethnomusicology, Scientivid Research Center of the Slovenian Academy of Sciences and Arts	
30	ウェルズ恵子	「山椒大夫」の広がりと変遷：声、舞台、文学、映像	2018 年 3 月	日本バラッド協会第 10 回大会	
31	佐藤渉	"The place was speaking"—Kate Grenville, The Secret River における風景描写	2017 年 11 月	オーストラリア・ニュージーランド文学会 2017 年度秋季研究大会、立命館大学衣笠キャンパス	
32	坂下史子	From Anti-Lynching Struggles to the Black Lives Matter Movement: The Politics of Looking and Respectability Reexamined	2017 年 6 月	アメリカ学会年次大会、早稲田大学	
33	坂下史子	Strategic Dis/continuities between Anti-Lynching and BLM Movements	2017 年 6 月	黒人研究学会年次大会、立命館大学	
34	坂下史子	When and Where I Entered: Intellectual Autobiography of a Japanese African Americanist	2018 年 3 月	連続講演会"But Some of Us Are Brave: Narratives of Scholarship, Resistance, and Activism by Women/Women of Color"(University of Puget Sound, USA)	
35	安保寛尚	人種差別とキューバ文学	2017 年 6 月	日本ラテンアメリカ学会、第 38 回定期大会、パネル「問い直すキューバ文学：回顧と展望」、東京大学駒場キャンパス	久野量一、寺尾隆吉、山辺弦、松本健二（コメンテーター）
36	安保寛尚	アフリカン・ディアスポラのレトリック理論—シグニファイングとチョテオ	2018 年 3 月	ヴァナキュラー文化研究会、シンポジウム「西欧の伝統に対するアフリカン・ディアスポラ文学の交渉と実践—アメリカ、キューバ、ブラジルを例に」、立命館大学朱雀キャンパス	福嶋伸洋、岡島慶、武井寛（コメンテーター）
37	岡本広毅	Role-Playing Game における中世主義とモンスター表象—日本における受容のあり方を巡って	2017 年 12 月	シンポジウム「ポップ・アーサリアーナ—サブカルチャーにおけるアーサー王物語の受容と変容」、白百合女子大学	
38	岡本広毅	中世イギリス文学における≪ロマンス≫と自国語意識—アーサー王物語を中心に	2017 年 9 月	東洋大学国際哲学研究センターワークショップ「文学はどう見られていたか—古代・中世・近代の変遷」、東洋大学国際哲学研究センター	
39	Hiroki OKAMOTO	Ancestral Memory and Landscape in the Brut Chronicle and Sir Gawain and the Green Knight.	2017 年 6 月	The International Lawman's Conference, Brigham Young University,	
40	古谷やす子	Zora Neale Hurston の Jonah's Gourd Vine—精神の自由と恐怖	2017 年 7 月	立命館大学英米文学会、立命館大学恒心館 721 号教室	
41	川内有子	ミットフォード "The Forty-seven Ronins" 執筆の手法とイギリスにおける同時代的反響の考察	2017 年 6 月	第41回 ARCセミナー、立命館大学、京都市	
42	Yuko Kawauch	Translating Wordplays in Japanese Early Modern Texts: Comparative	2017 年 9 月	IAPONICA BRUNENSIA 2017、マサリク大学、チェコ・ブルノ市	

	i	Study of Two English Translations of Act. VII of Kanadehon Chushingura			
43	川内有子	ジョン・メイスフィールドの The Faithful が忠臣蔵の受容に与えた影響	2017 年 12 月	日本比較文化学会関西部会、同志社大学、京都市	
44	川内有子	バーミンガム図書館蔵初演資料を用いたジョン・メイスフィールド作 “The Faithful” の再検討	2018 年 2 月	日本英学史学会月例研究会、拓殖大学、東京都文京区	
45	山﨑遼	『海辺の牡蠣』—Stanley Robertson の Fish-Hooses シリーズ	2017 年 9 月	日本カレドニア学会大会、京都	
46	山﨑遼	欧米民俗学の歴史とスコットランド民俗学の現状	2018 年 3 月	理論民俗学研究会、兵庫	
47	猪熊慶祐	コメディか否か—ハーレム・ルネッサンス文学におけるミンストレル・ショーの影響	2017 年 6 月	人間研究会、立命館大学	
48	竹村理世	シェイクスピア A Midsummer Night's Dream について	2017 年 9 月	ヴァナキュラー文化研究会、立命館大学	
49	宮下和子	映画『ラ・ラ・ランド』に見る 21 世紀のゴールド・ラッシュ	2017 年 9 月	日本コミュニケーション学会九州支部第 21 回支部大会、純心女子高校、長崎市	
50	西山淳子	英語学習者と母語話者にとっての自然な発音評価の基準—イントネーション加工音声による調査より	2018 年 3 月	言語文化学会第 31 回大会、関西医科大学	上野舞斗、孫工季也
51	西山淳子	英語学習者と英語母語話者にとっての自然な英語発音	2018 年 2 月	同志社ことばの会 2017 年度年次大会、同志社大学	孫工季也、上野舞斗
52	加藤昌弘	参加型メディアにおける新しいナショナル・イメージの形成—スコットランド英語のお笑い番組を対象としたオーディエンス調査からの考察	2017 年 9 月	『日本カレドニア学会 2017 年度大会』、立命館大学	
53	加藤昌弘	スコットランド研究の立場から	2017 年 10 月	小笠原博毅『セルティック・ファンダム—グラスゴーにおけるサッカー文化と人種』書評会』、神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ	
54	田中寛	大東亜共栄圏下における異言語接触の一断面	2017 年 6 月	日本植民地教育史研究会例会、こども宝仙教育大学	
55	田中寛	文学で刻む日中戦争の記憶	2017 年 7 月	日本華人学術会議、中国社会科学院共催「盧溝橋事件 80 周年国際シンポジウム」、明治学院大学	
56	田中寛	国策映画「起ち上る泰」、「泰国の全貌」について	2017 年 7 月	日本タイ学会、法政大学神田キャンパス	
57	田中寛	朝日新聞外地版にみる中国大陸日本語普及の実態	2017 年 12 月	戦時日本語教育史研究会、シンポジウム「日本語教育史から見た日中戦争」、大東文化会館	
58	湊圭史	捕鯨文学としての Kim Scott 著 That Deadman Dance」	2017 年 5 月	オーストラリア・ニュージーランド文学会 2017 年度春季研究大会、明星大学日野キャンパス	
59	湊圭史	Hamilton: An American Musical のプロソディと登場人物の特質	2017 年 6 月	アメリカ文学会関西支部 6 月例会 関西外語大学中宮キャンパス	

60	湊圭史	ブロードウェイ・ミュージカルによる歴史の再評価—Hamilton: An American Musical と Bloody Bloody Andrew Jackson を比較して	2017 年 10 月	日本アメリカ文学会第 56 回全国大会、鹿児島大学郡元キャンパス	
61	湊圭史	グローバル時代の先住民文化—オーストラリア先住民のヒップホップに見るレジリエンス	2017 年 6 月	オーストラリア学会 2017 年度全国研究大会、成城大学	
62	黒岩裕市	〈共作共演〉の行方——『裏ヴァージョン』を中心に	2018 年 3 月	国際基督教大学ジェンダー研究センター国際シンポジウム「〈フレキシブル〉に抗う——女、セクシュアリティ、そして文学をめぐる対話」国際基督教大学	
63	黒岩裕市	〈差異の政治〉と一九九〇年代(ディスカッサント)	2017 年 5 月	日本近代文学会、2017年度春季大会	
64	栗山雄佑	いかにして「猪」は現れたのか——又吉栄喜「ジョージが射殺した猪」論	2017 年 12 月	第 152 回立命館大学日本文学会例会	
65	金友子	Hate Speech and Zainichi Korean Women: A Survey Results	2018 年 1 月	Beyond Hate and Fear: How Do Asia and Europe Deal with Hate Speech?	
66	金友子	オーラルヒストリーからみる 1960 年代在日韓国人学生運動	2017 年 10 月	2017 年統一人文学世界フォーラム「高麗人強制移住 80 年: カザフスタン高麗人の昨日と今日」	
67	Yumi Kim Takenaka	Realism and Ethnology in Shoji Ueda's Photography: Another Aspect of Ueda cho	2017 年 6 月	Joint Workshop of Kobe University, Ritsumeikan University and FU Berlin, Landscapes in Art, Theory, and Practice across Media, Time, and Place, at FU Berlin	
68	竹中悠美	植田正治の写真におけるリアリズムと民俗学の問題	2017 年 6 月	立命館大学国際言語文化研究所重点研究プログラム「風景・空間の表象、記憶、歴史」第 2 回研究例会、立命館大学	
69	Shoko Sumida	Ruin or Heritage?: A Study on Narratives and Images about Gunkanjima	2017 年 9 月	15th International Conference of the European Association for Japanese Studies, at Lisbon	
70	仲間絢	バンベルク大聖堂聖ゲオルギウス内陣北障壁の考察—花嫁としてのマリアの戴冠のプログラム	2017 年 10 月	美学会第 68 回全国大会、國學院大學	
71	Yuko Nakama	Invisible air: How it is made visible in Japanese art	2017 年 6 月	Joint Workshop of Kobe University, Ritsumeikan University and East Asian Art History, FU Berlin "Landscapes in Art, Theory, and Practice across Media, Time, and Place":	
72	Yuko Nakama	Das Landschaftsbild bei C. D. Friedrich und japanischen Meistern: Ein kulturwissenschaftlicher Vergleich	2017 年 9 月	Alte Nationalgalerie, Berlin	
73	仲間裕子	ディレッタンティズムと近代社会: カール・グスタフ・カールスの芸術理念	2017 年 10 月	国際シンポジウム「ドイツ近代芸術におけるディレッタンティズム」(東京藝術大学)	

74	Federico Farne'	Archi-literature: Form and Narration Between Architecture and Literature	2017 年 5 月 3－5 日	University of Bologna, School of Engineer and Architecture	

４．主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	ヴァナキュラー文化研究会「シェイクスピア『真夏の夜の夢』A Midsummer Night's Dream のビデオ鑑賞と討論」	衣笠キャンパス	2017 年 9 月	6 名	
2	ヴァナキュラー文化研究会「アメリカの医療現場でのユーモア―医者が笑いを誘うとき」	衣笠キャンパス	2017 年 10 月	26 名	立命館大学大学院文学研究科英語圏文化専修
3	ヴァナキュラー文化研究会、ミンストレルショー関連資料勉強会	衣笠キャンパス	2018 年 2 月	5 名	
4	ヴァナキュラー文化研究会「西洋の伝統に対するアフリカン・ディアスポラ文学の交渉と実践―アメリカ、キューバ、ブラジルを例に」	朱雀キャンパス	2018 年 3 月	25 名	
5	ヴァナキュラー文化研究会「シェイクスピア『十二夜』について」	衣笠キャンパス	2018 年 3 月	5 名	
6	フェミニズム×現象学――フェミニスト現象学と「個人的な経験」をめぐって	衣笠キャンパス	2018 年 2 月	25 名	立命館大学国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト・フェミニズム研究会、立命館大学生存学研究センター・フェミニズム研究会
7	映画「ミス・プレジデント」上映と監督のトーク	衣笠キャンパス	2017 年 11 月	20 名	立命館大学コリア研究センター
8	特別研究会「戦時の性暴力と性的搾取 ――第二次世界大戦下のドイツ軍の場合」	衣笠キャンパス	2017 年 4 月	45 名	
9	形象論研究会特別公開研究会	京都工芸繊維大学	2018 年 2 月	20 名	
10	国際ラウンドテーブル：Artist as Critical Curator	京都工芸繊維大学	2017 年 7 月	200 名	
11	国際ワークショップ「ベルリンのモダニズム―20 世紀前半のメトロポリスの表象―」	立命館大学	2017 年 10 月	40 名	日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)
12	講演会「都市と文化―ヴァイマル、ドレスデンの伝統」	立命館大学	2017 年 10 月	30 名	
13	民族藝術会特別講演会	立命館大学	2018 年 3 月	20 名	民族藝術学会後援

５．その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	田浦秀幸	シドニーでのバイリンガル・バイカルチャー教育と子育て基調講演(招待講演)	シドニー国際交流基金	2017 年 3 月
2	TAURA, Hideyuki	Narrative development and brain activation in L1 and L2 (SOAS Linguistics Departmental Seminar)	SOAS, London	2017 年 5 月
3	田浦秀幸	ロンドンでのバイリンガル・バイカルチャー教育と子育て	SOAS, London	2017 年 8 月、9 月
4	田浦秀幸	第二言語習得理論から見た発信型英語教育教授法(招待基調講演)	立命館大学茨木キャンパス	2017 年 11 月

5	田浦秀幸	日本の英語教育現場に生かせるバイリンガリズム研究(招待講演)	京都府立山城高校英語教員対象特別講義	2018 年 1 月
6	田浦秀幸	千里国際ってどんな学校？:8 年間の縦断研究より(招待講演)	関学千里国際キャンパス	2018 年 2 月
7	田浦秀幸	シンガポールでのバイリンガル・バイカルチャー教育と子育て(招待講演)	シンガポール日本人会館	2018 年 2 月
8	田浦秀幸	覚えが悪いのにはワケがある：英語勉強法の脳科学	プレジデント(プレジデント社), 31-37 (全 196 頁)	2017 年 4 月
9	田浦秀幸	英語勉強法の脳科学	プレジデントムック (プレジデント社), 17-23 (全 79 頁)	2018 年 1 月
10	田浦秀幸	みんなが知りたい！バイリンガルの育て方	Spring 誌(シンガポール発グローバル教育を考える本格的教育マガジン), 20-21 (全 25 頁)	2018 年 4 月
11	ウェルズ恵子	音楽から人権を考える―アフリカ系アメリカ人の歌	平成 29 年度人権問題都民講座	2017 年 9 月
12	ウェルズ恵子	アメリカの多様なハロウィン	丸善京都本店講演会（リサ・ギャバートと共同で講演）	2017 年 10 月
13	ウェルズ恵子	アメリカの歌―源流を探る	京都市市民講座「虹の探求/多用の表現を探る」	2018 年 2 月
14	ウェルズ恵子・岡本広毅	アメリカのクリスマス	FM OH ゲスト出演	2017 年 12 月
15	坂下史子	日米における暴力の記憶	インディアナ大学スティーヴン・ストウ名誉教授とミシガン州立大学和氣直子准教授との研究交流、京都市内	2017 年 5 月 19 日
16	坂下史子	人権研修会講演「人種ステレオタイプの弊害―アメリカを例に」	同志社大学今出川キャンパス	2017 年 9 月 12 日
17	坂下史子	インタビュー「黒人差別、米国の悲しい歴史」	朝日小学生新聞	2017 年 10 月 3 日
18	坂下史子	ゲスト講義：African American Studies in Japan	ピュージェットサウンド大学学部授業 “African American Studies”	2018 年 3 月 23 日
19	田中寛	特別講義：存在動詞の後置詞化	国際連語論学会年次大会、大東文化会館	2018 年 2 月 25 日
20	黒岩裕市	歌謡曲をたのしむ――ジェンダーの視点から	区民学習活動支援事業・台東区立男女平等推進プラザ「はばたき21」	2017 年 10 月 28 日、11 月 25 日
21	金友子	第 2 回在日コリアン女性実態調査報告会	「アプロー在日コリアン女性ネットワーク」主催、ドーンセンター大会議室（大阪市）	2018 年 3 月 17 日
22	金友子	コメント、共同セミナー「女性の人権と複合差別：経験のちがいと重なりを考える」第 1 回「民族、国籍とジェンダー」	共催：大阪市立大学人権問題研究センター・大阪府立大学女性学研究センター、大阪市立大学梅田サテライト（大阪市）	2017 年 9 月 22 日
23	竹中悠美	ファン・ゴッホについて―様式と贋作問題―	西宮市立甲陵中学校 PTA 国際人権委員会講演会	2018 年 3 月 6 日
24	竹中悠美	写真展「ザ・ファミリー・オブ・マン」は世界でどう見られたか	立命館大阪梅田キャンパス講座「シリーズ 美術のたくらみ―イメージの越境と接触―」	2018 年 3 月 20 日
25	山本真紗子	ディスプレイのなかの「空想美術館」―美術・工芸とデジタル・アーカイブ―	立命館大阪梅田キャンパス講座・「シリーズ 美術のたくらみ―イメージの越境と接触―」、	2018 年 3 月 14 日
26	住田 翔子	現代日本における廃墟をめぐるまなざし	立命館大阪梅田キャンパス講座・「シリーズ 美術のたくらみ―イメージの越境と接触―」	2018 年 3 月 7 日
27	仲間裕子	ロマン主義的アイロニーの風景画―風景は風景を超えるか？	立命館大阪梅田キャンパス講座・「シリーズ 美術のたくらみ―イメージの越境と接触―」	2018 年 2 月 28 日

６．受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当無し					

７．科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	久野量一	宗主国の交代と植民地――20 世紀スペイン語圏カリブ地域文学における共同体意識の研究	基盤研究(C)	2014 年 4 月	2019 年 3 月	代表
2	佐久間寛	人類学的手法を取り入れた黒人文化総合誌『プレザンス・アフリケーヌ』の複合的研究	挑戦的研究(萌芽)	2017 年 6 月	2020 年 3 月	代表
3	寺尾智史	南部アフリカ・アンゴラ共和国における言語政策の動向	基盤研究(C)	2014 年 4 月	2018 年 3 月	代表
4	西成彦	比較植民地文学研究の新展開――「語圏」概念の有効性の検証	基盤研究(C)	2015 年 4 月	2018 年 3 月	代表
5	中村隆之	20 世紀フランス語圏カリブ海文芸誌の調査研究	若手研究(B)	2015 年 4 月	2019 年 3 月	代表
6	中川成美	クィア理論と日本文学―クィア・リーディングの可能性と実践	基盤研究(C)	2016 年 4 月	2019 年 3 月	代表
7	小川さやか	アジアーアフリカ諸国間の模造品交易に関する文化人類学的研究―携帯電話を事例に	若手研究(A)	2016 年 4 月	2020 年 3 月	代表
8	河原典史	カナダ契約移民の輩出と渡航後の地域的展開をめぐる歴史地理学的研究	基盤研究(C)	2015 年 4 月	2020 年 3 月	代表
9	米山裕	環太平洋における在外日本人の移動と生業	基盤研究(A)	2013 年 4 月	2018 年 3 月	代表
10	井上彰	カタストロフィの分配的正義論	基盤研究(C)	2015 年 4 月	2018 年 3 月	代表
11	田浦秀幸	日英バイリンガル園児のメタ言語能力発達段階解明 fNIRS 研究	挑戦的萌芽研究	2016 年 4 月	2019 年 3 月	代表
12	田浦秀幸	幼児期の二言語使用が認知と脳にもたらす影響の解明	基盤研究(C)	2015 年 4 月	2019 年 3 月	分担
13	田浦秀幸	上海地区の小中高の英語教育現状と新人英語教員の研修の現地調査 – 日本への提言	基盤研究(C)	2014 年 4 月	2018 年 3 月	分担
14	田浦秀幸	早期日英バイリンガル 2 人からの 17 年間縦断データ分析研究	基盤研究(C)	2014 年 4 月	2018 年 3 月	分担
15	ウェルズ恵子	アメリカにおける都市移民の口承文化―1880-1930 年代の南欧東欧移民を中心に	基盤研究(C)	2014 年 4 月	2018 年 3 月	代表
16	佐藤渉	現代オーストラリア小説から読み解く先住民とヨーロッパ人の関係性	基盤研究(C)	2017 年 4 月	2020 年 3 月	代表
17	坂下史子	アメリカの人種暴力の歴史にみる記憶の政治学―エメット・ティル事件を例に	基盤研究(C)	2016 年 4 月	2019 年 3 月	代表
18	西山淳子	英語の完了相と時の副詞句の情報構造に関する研究	基盤研究(C)	2014 年 4 月	2018 年 3 月	代表
19	湊圭史	環太平洋的／惑星思考的想像力が描く natureculture としての環境表象研究	基盤研究(C)	2016 年 4 月	2018 年 3 月	分担
20	梁仁實	<戦後>韓国映画における「植民地」表象と日韓における変容	基盤研究(C)	2017 年 4 月	2019 年 3 月	代表

21	姫岡とし子	近代ドイツのナショナリズムとさまざまな女性運動ー日本のフェミニズムも含めて	基盤研究(C)	2017 年 4 月	2019 年 3 月	代表
22	木村朗子	震災後文学の研究とその理論的構築	基盤研究(C)	2017 年 4 月	2019 年 3 月	代表
23	堀江有里	日本におけるクィア神学の文脈化をめぐる研究――「解放の神学」アプローチの可能性	基盤研究(C)	2017 年 4 月	2019 年 3 月	代表
24	松本克美	修復的正義の観点からの＜損害の可視化＞を実現するための損害論の法心理学的再構築	基盤研究(C)	2016 年 4 月	2018 年 3 月	代表
25	岡野八代	ケアの倫理の民主主義的展開ーーフランスにおけるケアの倫理受容研究を通じて	基盤研究(B)	2015 年 4 月	2018 年 3 月	代表
26	松本克美	東北大震災放射能・津波被災者の居住福祉補償とコミュニティ形成ー法学・医学の対話	基盤研究(B)	2016 年 4 月	2019 年 3 月	分担
27	丸山里美	子どもの貧困に関する総合的研究：貧困の世代的再生産の過程・構造の分析を通して	基盤研究(A)	2016 年 4 月	2019 年 3 月	分担
28	丸山里美	婦人保護施設から見た戦後日本女性の貧困―貧困概念の再定義に向けて	基盤研究(B)	2015 年 4 月	2017 年 3 月	分担
29	丸山里美	「女性の貧困」を捉える：世帯内資源配分に着目した実証研究の方法の開発	基盤研究(C)	2016 年 4 月	2018 年 3 月	分担
30	丸山里美	オルタナティブ家族で精子提供によって出生した子の情報開示ジレンマに関する研究	挑戦的研究(萌芽)	2017 年 4 月	2019 年 3 月	分担
31	竹中悠美	中断された生の残像：死者の写真展示における美学と倫理の問題	基盤研究(C)	2017 年 4 月	2022 年 3 月	代表
32	山本真紗子	19 世紀末から 20 世紀初頭の欧米の「日本美術」愛好を支えたネットワーク	若手研究(B)	2016 年 4 月	2019 年 3 月	代表

８．競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	丸山里美	Living on the Streets in Japan: Homeless Women Break Their Silence	学術図書出版助成			代表
2	竹中悠美	2018 年度春期特別展　ヤズディの祈り	公益財団法人　花王芸術・科学財団芸術文化助成【美術】	2018 年 3 月	2018 年 7 月	担当者
3	竹中悠美	「アジア芸術学」の創成	立命館アジア・日本研究機構アジア・日本研究推進プログラム	2018 年 4 月	2021 年 3 月	プロジェクトサブリーダー

９．知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
該当無し								